

# H27-B-4 13.65~17.86m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
20	13.85	13.75	木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。	13.65	13.75	木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。	13.65	13.75	13.65~13.75m: 木片混じり。13.75m付近に合板を含む。	上記に盛土区間を適正化したため、人工地盤である旨の記事は削除した。
21	-	-		13.75	140.00	花崗斑岩堆積物との境界は45°で明確。所々、珪晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。	13.75	140.00	13.75~140.00m: 花崗斑岩堆積物との境界は45°で明確。所々、珪晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。	-
22	13.75	14.67	風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。				13.75	14.67	13.75~14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。	-
23	14.24	14.24	付近、割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著。	14.24	14.24	付近、65°割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著。	14.24	14.24	14.24m付近、65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。	-
24	14.53	14.53	付近、頁岩様3層。上部からの崩壊物と思われる。	14.53	14.53	付近、頁岩様3層。上部からの崩壊物と思われる。	14.53	14.53	14.53m付近、頁岩様3層を含む。上部からの崩壊物である。	-
25	14.67	-	風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが隠蔽できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い黄鉄鉱が見られるものがある。	14.67	15.49	風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが隠蔽できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い黄鉄鉱が見られるものがある。	14.67	15.49	14.67~15.49m: 風化は若干弱くなり、割れ目のほとんどが隠蔽できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い白色黄鉄鉱が見られるものがある。	-
26	15.00	15.49	低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化。砂-シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。	15.00	15.30	15.00m、15.09mにはそれぞれ43°、55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化。砂-シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。	15.00	15.30	15.00m、15.09mにはそれぞれ43°、55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化する。砂-シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。	-
27	15.00	15.91	(変質層)3ランク	15.00	15.91	(変質層)2ランク	15.00	15.91	(変質層)2ランク	-
28	15.52	15.60	塊状コア。多くは上部からの崩壊物と思われる。	15.49	15.62	塊状コア。多くは上部からの崩壊物と思われる。	15.49	15.62	15.49~15.62m: 塊状コアを呈する。	-
29	15.60	15.91	割れ目沿いの劣化が著しく脆弱。	15.62	15.91	90°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱。	15.62	15.91	15.62~15.91m: 90°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	-
30	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンで汚染される。	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンで汚染される。	15.91	16.36	●15.91~16.36m: 破砕帯 15.91~16.33m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	●15.91~16.36m: 破砕帯 15.91~16.33m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。
31	15.91	15.91	上端72°。緑灰色の粘土がやや高曲しながら厚2~6mmで見られる。	15.91	15.91	上端72°。緑灰色の粘土がやや高曲しながら厚2~6mmで見られる。	15.91	15.91	●15.91~16.36m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	●15.91~16.36m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。
32	-	-		15.91	16.33	上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。粘土混じり塊状~粘土質塊状(H)を呈する。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	15.91	16.36	●15.91~16.36m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	-
33	-	-		16.33	16.36	上端不明瞭。下端70°で激打って連続。灰白色の粘土状~凝り粘土状(H)を呈する。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。厚さ25mm。粘土は軟質で連続性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	16.33	16.36	●15.91~16.36m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	-
34	16.36	16.36	下端76°。灰白色の変質粘土が厚さ25mm程度生じている。最新活動面。粘土を伴い、最も連続的である。	16.36	16.36	下端76°。灰白色の変質粘土が厚さ25mm程度生じている。最新活動面。粘土を伴い、最も連続的である。	16.36	16.36	●15.91~16.36m: 粘土混じり塊状~粘土質塊状部(H) 上端72°でやや高曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目沿って細粒物を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	-
35	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	16.36~16.52m: 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	-
36	16.52	48.20	(変質層)3ランク	16.52	48.20	(変質層)2ランク	16.52	48.20	(変質層)2ランク	-
37	16.52	17.03	割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる。	16.52	17.03	40~60°の割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる。	16.52	17.03	16.52~17.03m: 40~60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫~砂状となる。	-
38	17.03	17.86	低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	20°程度の低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	17.03~17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	-

# H27-B-4 17.86~27.85m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
39	17.86	18.00	コア表面のザラつきは軽微程度。	17.86	18.52	コア表面のザラつきは軽微程度。 20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い	・下端深度を変更し、その区間に見られる低角度の割れ目について追記した	17.86	18.52	17.86~18.52m:コア表面のザラつきは軽微程度。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。	-	
40	18.00	19.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	18.00	18.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	・上記の記事を含めて削除した	-	-	-	-	
41	-	-	-	18.52	24.55	30~60°の中角度の割れ目が主体。割れ目に沿った褐色化が認められる。斜長石の風化し軟質となった比較的大型の珪晶が目立つ。	・割れ目沿いの褐色化が周囲と異なる状況であるため追記し、当該区間に見られる斜長石の珪晶の特徴を追記した	18.52	24.55	18.52~24.55m:30~60°の中角度の割れ目が主体で、割れ目に沿った褐色化が認められる。風化し軟質となった比較的大型の斜長石の珪晶が目立つ。	-	
42	18.70	20.00	斜長石の風化し軟質となった比較的大型の珪晶が目立つ	18.70	20.00	斜長石の風化し軟質となった比較的大型の珪晶が目立つ	・上記の記事を含めて削除した	-	-	-	-	
43	19.57	19.76	礫状コアが主体となる	-	-	-		19.57	19.76	19.57~19.76m:礫状コアが主体となる。	-	
44	20.02	20.02	付近、きわめて小規模な破砕帯(変質帯)幅10~20mm、50°	20.02	20.02	付近、きわめて小規模な破砕帯(変質帯)幅10~20mm、50°。途中でせん滅している。	・用語の統一(破砕帯→破砕部、変質帯→変質部) ・脚記の修正(削⇒幅) ・破砕部の連続性について追記した ・連続性に乏しいため破砕部ではないと判断して「破砕部」を削除した	20.02	20.02	20.02m付近、傾斜50°で幅10~20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん滅する。	-	
45	20.07	20.07	小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm、角度30° 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。	20.07	20.07	小規模な破砕帯(変質部)幅10~40mm、角度30° 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。	・用語の統一(破砕帯→破砕部、変質帯→変質部) ・破砕部とした箇所周辺の岩盤の状況について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕部」を削除した	20.07	20.07	20.07m:傾斜30°で幅10~40mmの小規模な変質部。周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。	-	
46	20.23	20.37	割れ目沿いに一部細線状となる。	-	-	-		20.23	20.37	20.23~20.37m:割れ目沿いに一部細線状となる。	-	
47	20.58	20.55	礫状となる。	20.55	20.65	礫状となる。	・脚記の修正(上端の20.58⇒20.55、下端の20.55⇒20.65)	20.55	20.94	20.55~20.65m、20.87~20.94m:礫状となる。	・記事内容が同じであるため、20.87~20.94mの深度も含めて記載した	
48	20.87	20.94	礫状となる。	-	-	-		-	-	-	・上記に手とめ書きしたため記載しない	
49	21.38	21.50	微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭	21.18	21.50	微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭	・21.18m以下にもマンガン汚染が見られるため上端深度を変更した	21.18	21.50	21.18~21.50m:微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭である。	-	
50	21.50	22.47	割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変化する	-	-	-		21.50	22.47	21.50~22.47m:割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変化する。	-	
51	21.85	22.18	(岩級区分欄)CM	21.85	22.18	(岩級区分欄)OL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	21.85	22.18	(岩級区分欄)OLに含める	-	
52	22.47	22.55	礫状コアの一部は上部から原堆物も含まれていると思われる。	22.47	22.55	礫状コアの一部は上部から原堆物も含まれていると思われる。コア引き上げ時のコアの擾乱部である。	・原堆物ではなく、コア引き上げ時のコアの擾乱による礫状であるため記載を変更した	22.47	22.55	22.47~22.55m:コアチューブ引き上げ時の擾乱により礫状となる。	-	
53	23.39	-	コアは軟質となり、表面はザラつく	23.38	24.55	コアは軟質となり、表面はザラつく	・軟質化している区間を追記した ・脚記の修正(23.39⇒23.38)	23.38	24.55	23.38~24.55m:コアは軟質となり、表面はザラつく。	-	
54	24.13	24.55	落下したコアを再採取したものと思われる。	-	-	-		24.13	24.55	24.13~24.55m:落下したコアを再採取したものである。	-	
55	-	-	-	24.55	25.48	コア欠如	・コア欠如区間を追記した	24.55	25.48	24.55~25.48m:コア欠如	-	
56	-	-	-	25.48	27.22	全体に変質し、長石の白濁化が目立つ。	・長石の白濁化は周囲と異なる状況であるため追記した	25.48	27.22	25.48~27.22m:全体に変質し、長石の白濁化が目立つ。	-	
57	25.96	26.19	コアは軟質で表面のザラつきが大きい	-	-	-		25.96	26.19	25.96~26.19m:コアは軟質で表面のザラつきが大きい。	-	
58	26.40	26.47	割れ目沿いの劣化が明瞭。コアも周辺より軟質である。	-	-	-		26.40	26.47	26.40~26.47m:割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアも周辺より軟質である。	-	
59	26.96	27.22	岩質が軟質で脆弱である	-	-	-		26.96	27.22	26.96~27.22m:岩質が軟質で脆弱である。	-	
60	27.22	27.22	断断性の割れ目。変質も加わり上端側は明黄色で幅20mm軟質。角度40°、N7E-64W	27.22	27.22	せん断性の割れ目。変質も加わり上端側は明黄色で幅20mm軟質。変質は凹凸があり、その組み合わせは良い。軟質部は連続せず、周辺岩盤との境界は一部を除いて漸移的である。軟質部の下端側の岩盤には原岩組織が認められ、軟質部と系統的な割れ目も存在しない。角度40°、N7E-64W	・表現の統一(せん断) ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・明黄色という色名は「新灰 標準土色帖」にない名称であるため、土色帖にある名称に変更した ・軟質部及び周辺岩盤の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・走向傾斜は、コア観察からは得られない情報であるため削除した	27.22	27.22	27.22m:40°の割れ目は、変質も加わり上端側は明黄色を呈し、幅20mmで軟質である。割れ目の面は凹凸があり、面のみ合わせは良い。軟質部は連続せず、周辺岩盤との境界は一部を除いて漸移的である。軟質部の下端側の岩盤には原岩組織が認められ、軟質部と系統的な割れ目も存在しない。	-	
61	27.38	27.85	(岩級区分欄)CM	27.38	27.85	(岩級区分欄)OL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	27.38	27.85	(岩級区分欄)OLに含める	-	

# H27-B-4 27.95~33.62m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)
		コア観察カードから正しく転記されているか？	<input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか？	<input checked="" type="checkbox"/>					
62	27.95	28.00	剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる	27.95	28.00	せん断性の節理が局所的に集中し脆弱となる。節理沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず、脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。	・表視の統一(せん断) ・せん断を示唆する状況が見られない。 ・節理沿いの細粒部の連続性及び脆弱部の原岩組織の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	27.95	28.00	27.95~28.00m: 割れ目が局所的に集中し脆弱となる。割れ目沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず、脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。	-	
63	-	-	-	28.10	28.10	傾斜60°、幅5~12mmのアブライト細脈を挟む。境界面は中庸している。	・アブライト脈は周囲と異なる状況であるため追記した。	28.10	28.10	28.10m: 傾斜60°で幅5~12mmのアブライト細脈を挟む。境界面は中庸している。	-	
64	28.24	28.24	低角度で幅10mm砂〜礫状となる。上下端はシャープ。	28.24	28.24	25°程度で幅10mm砂〜礫状となる。上下端はシャープ。	・低角度を具体的な数値に変更した。 ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。	28.24	28.24	28.24m: 25°程度で幅10mmが砂〜礫状となる。上下端はシャープである。	-	
65	29.48	29.91	微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m〜 微細な割れ目はマンガンに汚染される。	29.48	29.91	微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m〜29.91m 微細な割れ目はマンガンに汚染される。	・微細な割れ目が集中する下端深度を追記した。	29.48	29.91	29.48~29.91m: 微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m〜29.91mの微細な割れ目はマンガンに汚染される。	-	
66	29.60	29.70	剪断性の節理が卓越する。	29.60	29.70	せん断性の節理が卓越する。節理は全体にマンガン汚染により黒色化し、節理には細粒部が認められず、節理が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈(すれ)が認められない。また、節理が卓越する区間及び周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	・表視の統一(せん断) ・節理が卓越する区間の状況及びその中に分布する石英脈、周辺岩盤の状況について追記した。 ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	29.60	29.70	29.60~29.70m: 割れ目が卓越する。割れ目は全体にマンガン汚染により黒色化し、割れ目には細粒部が認められず、割れ目が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈(すれ)が認められない。また、割れ目が卓越する区間及び周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-	
67	-	-	-	29.65	29.65	傾斜45°、幅1~3mmの石英脈を挟む。	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した。	29.65	29.65	29.65m: 傾斜45°で幅1~3mmの石英脈を挟む。	-	
68	29.74	29.78	ごく小規模な破砕帯。上盤70°白色粘土2mm、下盤67°マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。	29.74	29.78	ごく小規模な破砕帯。上盤70°白色粘土2mm、下盤67°マンガン汚染顕著。いずれも直線的に連続する。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。径2~20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。やや軟質な粘土混じり礫状破砕部(H)。含まれる白色粘土は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。最新活動面は上端か下端の可能性があり、にぶい橙色を呈する。幅20mm。	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・硬軟、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、最新活動面、色調、真層について追記した。 ・略記の修正(「幅」の記載漏れ)	29.74	29.78	●29.74~29.78m: 破砕部。粘土混じり礫状部(H)。上端70°で幅2mmの白色粘土を一部に伴い、下盤67°でマンガン汚染が顕著に見られ、いずれも直線的に連続。径2~20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。上端側は幅10mmで一部変質を伴う。にぶい橙色を呈する。幅20mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
69	30.10	30.69	低角度の割れ目が優勢である。	30.10	30.69	25°前後の割れ目も見られる。	・低角度を具体的な数値に変更した。 ・優勢というほど低角度の割れ目頻度は高くはないため表現を変更した。	30.10	30.69	30.10~30.69m: 25°前後の割れ目が見られる。	-	
70	30.62	30.73	この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。	-	-	-		30.62	30.73	30.62~30.73m: やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し、マンガンが幅3~5mmで挟む。	-	
71	31.77	31.93	やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	31.77	31.93	25°前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	・やや低角度を具体的な数値に変更した。	31.77	31.93	31.77~31.93m: 25°前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	-	
72	31.87	31.91	剪断を受ける。上盤45°暗緑灰色の粘土〜シルトを3mm伴う。下盤40°、上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。	31.87	31.91	せん断を受ける。上盤45°暗緑灰色の粘土〜シルトを3mm伴う。下盤40°、上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表視の統一(せん断) ・せん断を示唆する状況が見られない。 ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・含まれる細粒部の連続性、軟質な区間及び周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な割れ目の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断を受けていないと判断して「せん断を受ける」を削除した。	31.87	31.91	31.87~31.91m: 上盤45°で幅3mmの暗緑灰色の粘土〜シルトを伴う。下盤40°、上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
73	32.00	33.00	(最大コア長欄)10	32.00	33.00	(最大コア長欄)12	・最大コア長が12cmのところがあるため修正した。	32.00	33.00	(最大コア長欄)12	-	
74	-	-	-	32.05	32.72	割れ目沿いの酸化汚染が目立つ	・酸化汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	32.05	32.72	32.05~32.72m: 割れ目沿いの酸化汚染が目立つ。	-	
75	32.36	32.39	20°~30°程度の剪断性の節理が平行して集中する	32.36	32.39	20°~30°程度のせん断性の節理が平行して集中する。上端・下端の節理はマンガン汚染により黒色化しているが、節理には細粒部が認められず、節理周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表視の統一(せん断) ・せん断を示唆する状況が見られない。 ・節理に挟むる細粒部、節理周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な割れ目の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性節理ではないと判断して「せん断性」を削除した。	32.36	32.39	32.36~32.39m: 20°~30°程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
76	32.68	32.73	30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑泥石の薄い脈が3条見られる	32.68	32.73	30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑泥石の薄い脈が3条見られる	・緑泥石であるため変更した。 ・略記の修正(「径」)	32.68	32.73	32.68~32.73m: 30°程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。	-	
77	33.00	33.62	30~50°の割れ目が優勢。割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	-	-	-		33.00	33.62	33.00~33.62m: 30~50°の割れ目が卓越し、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	-	

# H27-B-4 33.00~39.40m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
78	-	-	33.00	33.46	33.00m、33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色が見られる。	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	33.00	33.46	33.00m、33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色が見られる。
79	-	-	33.30	33.30	33.30mの割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。	・灰白色粘土化は周囲と異なる状況であるため追記した	33.30	33.30	33.30m: 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。
80	-	-	34.11	34.22	不規則な微細な割れ目が多い	・不規則な割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	34.11	34.22	34.11~34.22m: 不規則な微細な割れ目が多い。
81	-	-	34.22	34.22	傾斜65°、幅8mmの石英脈を挟む。	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した	34.22	34.22	34.22m: 傾斜65°で幅8mmの石英脈を挟む。
82	34.30	34.42	34.30	34.42	コアチューブ引き上げ時の擾乱により、機械割れ目が集中し、隙→岩片状コアとなる。	・コアチューブ引き上げ部により、機械割れが発生しているため人為的なものと判断した	34.30	34.42	34.30~34.42m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により機械割れ目が集中し、隙→岩片状コアとなる。
83	34.55	34.55	34.55	34.55	付近、局所的(連続しない)に傾斜30°で破砕され、細塊状となる。細塊状部は途中でせん断し、連続性に乏しく、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・低角度を具体的な数値に変更した ・細塊状部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な割れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断し「破砕され」を削除した	34.55	34.55	34.55m付近、傾斜38°で局所的で連続しない細塊部を伴う。細塊状部は途中でせん断し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
84	-	-	34.78	34.78	傾斜50°、幅1mm以下の石英脈を挟む。	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した	34.78	34.78	34.78m、34.79m: 傾斜50°で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。
85	-	-	34.79	34.79	傾斜50°、幅1mm以下の石英脈を挟む。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	・石英脈及び灰白色粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	-	-	-
86	-	-	35.32	35.32	傾斜40°、幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びている。	・石英脈及び赤味を帯びることについては周囲と異なる状況であるため追記した	35.32	35.32	35.32m: 傾斜40°で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。
87	35.60	35.78	35.60	35.78	35°程度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。	・低角度を具体的な数値に変更した ・脆弱を追記した ・鉱物脈白したものはやや硬質な粘土であるため粘土脈に変更した	35.60	35.78	35.60~35.78m: 35°程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。
88	35.72	35.72	35.72	35.72	付近、せん断破砕を局所的に受け、塊状となる。挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の統一(せん断) ・せん断を赤味とする状況が見られない ・挟在物の連続性、35.70~35.72m間及び周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な割れ目の有無について追記した ・上記及び追記した理由から塊状部ではないと判断して「せん断破砕を局所的に受け」を削除した	35.72	35.72	35.72m付近は塊状であるが、挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
89	-	-	35.78	39.40	割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。	・酸化汚染、マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	35.78	39.40	35.78~39.40m: 割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。
90	35.78	37.36	35.78	37.36	割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CL	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	35.78	37.36	(割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CM
91	36.14	36.35	-	-	この間割れ目がやや卓越する	-	36.14	36.35	36.14~36.35m: 割れ目がやや卓越する。
92	-	-	36.25	37.20	傾斜70°以上の高角度割れ目も見られる。	・高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	36.25	37.20	36.25~37.20m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が見られる。
93	-	-	36.86	39.40	傾斜50~70°の割れ目が主体	・傾斜50~70°の割れ目が主体となるのは周囲と異なる状況であるため追記した	36.86	39.40	36.86~39.40m: 傾斜50~70°の割れ目が主体となる。
94	36.98	37.10	36.98	37.10	75°の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細塊~砂状となる。	・高角度を具体的な数値に変更した ・白色化していることについて追記した	36.98	37.10	36.98~37.10m: 75°の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細塊~砂状となる。
95	37.36	37.36	37.36	37.36	25°の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト~砂が挟まる(流入?)	・流入物であるため「?」を削除した	37.36	37.36	37.36m: 25°の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト~砂が流入する。
96	37.36	37.98	37.36	37.98	割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	・汚染について具体的に追記した	37.36	37.98	37.36~37.98m: 割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。
97	37.98	38.08	37.98	38.08	(割れ目状態欄) bランク	・挟在物を伴わないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	37.98	38.08	(割れ目状態欄) bランク
98	37.98	38.27	37.98	38.27	(岩級区分欄) CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	37.98	38.27	(岩級区分欄) CHに含める
99	38.08	38.27	38.08	38.27	(コアの形状欄) IVランク	・38.21mの人為的な割れ目を除外してコアの形状のランクをIIIランクに変更した	38.08	38.27	(コアの形状欄) IIIランク
100	38.08	38.96	38.08	38.96	挟在物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。	・高角度を具体的な数値に変更した	38.08	38.96	38.08~38.96m: 挟在物を伴う割れ目は、38.53mの70°の1条のみである。
101	38.96	38.96	38.96	38.96	~、割れ目に沿って劣化するものが多い	・「~」を「以深」に変更した	38.96	38.96	38.96m以深、割れ目に沿って劣化するものが多い。
102	38.96	39.40	38.96	39.40	(岩級区分欄) CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	38.96	39.40	(岩級区分欄) CMIに含める

# H27-B-4 39.10~45.21m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
103	39.10	39.40	(コアの硬さ欄)Cランク	39.10	39.40	(コアの硬さ欄)Bランク	39.10	39.40	(コアの硬さ欄)Bランク	-
104	39.21	39.21	割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂〜細礫状となる。	-	-	-	39.21	39.65	39.21m、39.60~39.65m:割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂〜細礫状となる。	記事内容が同じであるため、39.60~39.65mの深度も含めて記載した。
105	39.60	39.65	割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂〜細礫状となる。	-	-	-	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
106	40.64	40.93	割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭。砂〜細礫となる所が多い。割れ目沿いに黄褐色している。	40.64	40.93	不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭。灰白色〜黄褐色の砂〜細礫となる所が多い。割れ目沿いに黄褐色している。	40.64	40.93	40.64~40.93m:不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化による劣化が明瞭である。灰白〜黄褐色の砂〜細礫状となる所が多い。	-
107	40.95	41.00	割れ目沿って劣化。細礫状となる。	40.93	41.00	割れ目沿って劣化。細礫状となる。	40.93	41.00	40.93~41.00m:割れ目沿って劣化し、細礫状となる。	-
108	41.00	41.20	低角度と高角度の割れ目が交差し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。	41.00	41.20	低角度と高角度の割れ目が交差し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。	41.00	41.20	41.00~41.20m:低角度と高角度の割れ目が交差し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。	-
109	41.37	41.47	ほぼ平行な割れ目が集中。割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。	41.37	41.47	ほぼ平行な40°前後の割れ目が集中。割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。	41.37	41.47	41.37~41.47m:ほぼ平行な40°前後の割れ目が集中し、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱である。	-
110	41.80	41.91	割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。	41.80	41.91	割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。黄褐色の粘土が網目状に分布する。	41.80	41.91	41.80~41.91m:割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。黄褐色の粘土が網目状に分布する。	-
111	-	-	-	42.12	42.12	傾斜40°、幅2mmの黄褐色粘土を挟む。	42.12	42.12	42.12m:傾斜40°で幅2mmの黄褐色粘土を挟む。	-
112	42.12	42.25	割れ目沿って劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし。脆弱なし。	42.12	42.25	割れ目沿って劣化が顕著。一部硬質な砂状となる。粘土なし。脆弱なし。	42.12	42.25	42.12~42.25m:割れ目沿いの劣化が顕著で、一部硬質な砂状となる。粘土や鏡肌は見られない。	-
113	42.35	42.35	25°と割れ目に厚さ2~3mmのマンガン挟在	42.35	42.35	25°の割れ目に厚さ2~3mmのマンガン挟在	42.35	42.35	42.35m:25°の割れ目に幅2~3mmのマンガン挟在。	-
114	42.38	42.46	局所的に固結した砂に岩片が混入。褐色汚染も明瞭。	42.38	42.46	局所的に硬質な砂に岩片が混入。褐色汚染も明瞭。	42.38	42.46	42.38~42.46m:局所的に硬質な砂に岩片が混入。褐色汚染も明瞭である。	-
115	43.05	43.05	剪断破壊をごく小規模に受ける。角度32°。幅10mm。上壁は幅1~2mmの石英脈。下壁は粘土2mm。	43.05	43.05	せん断破壊をごく小規模に受ける。角度32°。幅10mm。上壁は幅1~2mmの石英脈。下壁は灰白色粘土幅2mm。灰白色粘土は分岐し、直線性に乏しい。	43.05	43.05	43.05m:傾斜32°で幅10mmが劣化する。上壁は幅1~2mmの石英脈。下壁は幅2mmの灰白色粘土を伴う。灰白色粘土は分岐し、直線性に乏しい。	-
116	43.05	43.15	(岩級区分欄)D	43.05	43.15	(岩級区分欄)CL	43.05	43.15	(岩級区分欄)CLに含める	-
117	43.06	43.15	岩片状コア。(人為的なものを含む)	43.06	43.15	コアチューブ引き上げ時の擾乱による岩片状コア。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	43.06	43.15	43.06~43.15m:コアチューブ引き上げ時の擾乱により岩片状を呈する。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
118	43.54	43.65	変質及び風化の為、脆弱となる。43.63m 白色の変質帯。粘土化はしていないが軟質。	43.54	43.65	変質及び風化の為、脆弱となる。43.63m 幅15mm程度の白色の変質帯。粘土化はしていないが軟質。	43.54	43.65	43.54~43.65m:変質及び風化で脆弱となる。43.63mには幅15mm程度の白色の変質帯を伴い、粘土化はしていないが軟質である。	-
119	43.80	44.21	低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。	43.80	44.21	20~30°の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。	43.80	44.21	43.80~44.21m:20~30°の割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	-
120	44.46	44.46	42°の割れ目沿って褐色汚染顕著。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解産物)が散在し、幅5mm程度で緑色化している。	44.46	44.46	42°の割れ目沿って褐色汚染顕著。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解産物)が散在し、幅5mm程度で緑色化している。	44.46	44.46	44.46m:42°の割れ目沿って褐色汚染が顕著である。周辺には絹雲母と黄鉄鉱が散在し、幅5mm程度で緑色化する。	-
121	44.70	44.94	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Cランク	44.70	44.94	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	44.70	44.94	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	-
122	44.94	45.21	(コアの形状欄)IVランク	44.94	45.21	(コアの形状欄)Vランク	44.94	45.21	(コアの形状欄)Vランク	-

# H27-B-4 45.10~49.18m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
123	45.10	45.10	剪断性の節理。上盤側は一部20mmで脆弱となる。輝晶母が散在し、緑色化が著しい。節理に細粒部は認められず。節理の上位側の節理部は局所的に分布し、連続性に乏しい。また、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.10	45.10	せん断性の節理。上盤側は一部、幅20mmで脆弱となる。輝晶母が散在し、緑色化が著しい。節理に細粒部は認められず。節理の上位側の節理部は局所的に分布し、連続性に乏しい。また、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	せん断性の節理。上盤側は一部、幅20mmで脆弱となる。輝晶母が散在し、緑色化が著しい。節理に細粒部は認められず。節理の上位側の節理部は局所的に分布し、連続性に乏しい。また、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.10	45.10	45.10m: 割れ目に沿って上盤側は一部、幅20mmで脆弱となる。輝晶母が散在し、緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず。割れ目の上位側の節理部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
124	45.42	45.62	微細な割れ目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い。	-	-	-	-		45.42	45.62	45.42~45.62m: 微細な割れ目が密集し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い。		
125	45.73	45.80	割れ目沿いに劣化し、脆化→砂状となる。	45.73	45.80	割れ目沿いに劣化し、黄褐色の硬状→砂状となる。	色相を追記した。	45.73	45.80	45.73~45.80m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の硬→砂状となる。			
126	46.10	46.35	60~70°の割れ目が集中する。挟在物の見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。	-	-	-		46.10	46.35	46.10~46.35m: 60~70°の割れ目が密集する。挟在物を伴う割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。			
127	46.10	46.28	(コアの硬さ)Gランク (岩級区分)CL	46.10	46.28	(コアの硬さ)Bランク (岩級区分)CM	・周囲と同等のコアの硬さであるためコアの硬さのランクをBランクに変更した。 ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	46.10	46.28	(コアの硬さ)Bランク (岩級区分)CMに含める			
128	46.10	47.11	(割れ目状態)Cランク	46.10	47.11	(割れ目状態)Bランク	・挟在物を伴わないため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	46.10	47.11	(割れ目状態)Bランク			
129	47.11	47.32	緻密な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。	-	-	-		47.11	47.32	47.11~47.32m: 緻密な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。			
130	47.36	47.53	高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが、砂状の挟在物が見られる。	47.36	47.53	高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが、砂状の挟在物が見られる。	・表現の適正化(交差⇒交差)	47.36	47.53	47.36~47.53m: 高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目に汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。			
131	47.53	47.76	(岩級区分)CM	47.53	47.76	(岩級区分)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	47.53	47.76	(岩級区分)CLに含める			
132	47.76	-	微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。	47.76	48.39	微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。	・下端深度を追記した。	47.76	48.39	47.76~48.39m: 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。			
133	47.76	47.88	47.76~47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。	-	-	-		47.76	47.88	47.76~47.88m: 割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭である。			
134	48.30	48.33	(破砕区分)Ho-1	48.30	48.33	(破砕区分)Ho-2	・該当区間に破砕部は存在しないため破砕として削除した。	-	-	-			
135	48.38	48.38	破砕帯 上盤52° 下盤45° 幅30mmやや赤味を帯びる	48.39	48.43	破砕帯 上盤52°で直線的に、最新活動面。最も直線的な面。下盤45°一部波打って連続。幅30mmやや赤味を帯びる。上盤側は幅5~10mmでぶい橙色を呈する砂選じり粘土状部(Ho-2)。下盤側は幅12~20mmで灰白色を呈する微砂状部(Ho-2)からなり、いずれも原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。全体に硬質で両者の境界は波打っている。	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・破砕部の区間深度をコアに合わせて変更した。 ・上盤・下盤境界の性状について追記した。 ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。下盤も同様。 ・破砕部内物質、真価、色相、硬状、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	48.39	48.43	●48.39~48.43m: 破砕部 砂選じり粘土状~微砂状部(Ho-2) 上盤52°、下盤45°。上盤側は幅5~10mmでぶい橙色を呈する砂選じり粘土状部。下盤側は幅12~20mmで灰白色を呈する微砂状部からなる。両者の境界は波打っている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。			
136	48.43	60.07	(実質)3ランク	48.43	60.07	(実質)2ランク	・深度48.20m以下と蓋がないため実質のランクを2ランクに変更した。	48.43	60.07	(実質)2ランク			
137	-	-	-	48.74	48.74	傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白~緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。	・粘土の挟在及び長石の白濁化は周囲と異なる状況であるため追記した。	48.74	48.74	48.74m: 傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白~緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。			
138	-	-	-	48.87	48.87	傾斜42°の割れ目とそれと直交する40~50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	48.87	48.87	48.87m: 傾斜42°の割れ目とそれと直交する40~50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。			
139	-	-	-	49.02	49.18	不規則な割れ目が発達する。	・不規則な割れ目の発達には周囲と異なる状況であるため追記した。	49.02	49.18	49.02~49.18m: 不規則な割れ目が発達する。			
140	49.18	49.18	剪断性の節理。63°。上盤側幅20mm劣化し脆弱となる。	49.18	49.18	せん断性の節理。63°。上盤側幅20mm劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上盤側の節理部は途中でせん滅し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化している。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	・表現の統一(せん断) ・63°割れ目を横断する高角度割れ目が見られる。 ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。 ・粘土の挟在と緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。 ・粘土及び節理部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性節理ではないと判断して「せん断性の」を削除した。	49.18	49.18	49.18m: 63°で、上盤側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上盤側の節理部は途中でせん滅し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化する。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。			

# H27-B-4 49.43~57.74m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
141	49.43	49.43	白色の鉱物脈。風化しやや軟質。幅4mm、角度47°	49.43	49.43	白色～黄褐色の鉱物脈。風化しやや軟質。幅2～4mm、角度47°	49.43	49.43	49.43m:47°で幅2～4mmの白～黄褐色の鉱物脈を挟む。風化しやや軟質である。	-
142	50.09	50.09	70°の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出	50.09	50.09	15～70°の湾曲した開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出	50.09	50.09	50.09m:15～70°の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマンガンを挟む。	-
143	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質。表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質。表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。	50.39	50.60	50.39～50.60m:劣化し全体が軟質で、表面は砂状となる所がある。	-
144	50.39	50.60	(岩級区分欄)D	50.39	50.60	(岩級区分欄)CL	50.39	50.60	(岩級区分欄)CLに含める	-
145	50.58	50.92	白色細脈が不規則に入る。	50.58	50.92	白色粘土細脈が不規則に入る。	50.58	50.92	50.58～50.92m:白色粘土細脈が不規則に分布する。	-
146	51.20	51.43	微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って深い褐色筋(かり長石)が見られる所が多い。	51.20	51.43	微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って幅1mm以下で深い褐色粘土が見られる所が多い。	51.20	51.43	51.20～51.43m:微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下で深い褐色粘土を挟む所が多い。	-
147	51.66	51.97	微細な割れ目が非常に卓越(30～50°)。コアは軟質となる。	-	-	-	51.66	51.97	51.66～51.97m:30～50°の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。	-
148	51.90	51.90	45°の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈。厚さ4mm。褐色汚染明瞭。	52.90	52.90	45°の割れ目沿いに変質した黄褐色粘土脈。厚さ4mm。褐色汚染明瞭	52.90	52.90	52.90m:45°で幅4mmの変質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明瞭である。 *コアに合わせて挟在物を変更した	-
149	-	-	-	52.11	53.35	傾斜20°以下の微細な割れ目が1～3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	52.11	53.35	52.11～53.35m:傾斜20°以下の微細な割れ目が1～3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。 *低角度の微細な割れ目が発達することは断面と異なる状況であるため追記した	-
150	52.48	52.44	微細な割れ目が密集。コアは局所的に硬状となる。上端側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。	52.38	52.44	微細な割れ目が密集。コアは局所的に硬状となる。上端側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。	52.38	52.44	52.38～52.44m:微細な割れ目が密集し、局所的に硬状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマンガンを挟む。 *傾記の修正(52.48⇒52.38) *上端側が必ずしも上壁とは限らないため上端に変更した	-
151	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	-	-	-	-
152	53.54	53.59	割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細線～砂状となる。	-	-	-	53.54	53.59	53.54～53.59m:割れ目沿いの劣化が明瞭で、一部は細線～砂状となる。	-
153	53.74	53.74	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細線状となる。	53.84	53.84	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細線状となる。	53.84	53.84	53.84m:高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細線状となる。 *傾記の修正(53.74⇒53.84)	-
154	54.66	54.73	50～60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化。一部硬状となる。褐色汚染も顕著。	54.66	54.73	50～60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化。一部硬状となる。褐色汚染も顕著。	54.66	54.73	54.66～54.73m:50～60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部硬状となる。褐色汚染も顕著に見られる。 *傾記の修正(割れ⇒割れ目)	-
155	54.96	55.55	低角度の割れ目が非常に卓越する	54.96	55.55	傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する	54.96	55.55	54.96～55.55m:傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する。 *低角度を具体的な数値に変更した	-
156	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が挟在する。褐色汚染も明瞭である。	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで黄褐色の砂が挟在する。褐色汚染も明瞭である。	55.56	55.56	55.56m:50°の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。 *色調を追記した	-
157	56.06	56.41	(岩級区分欄)CM	56.06	56.41	(岩級区分欄)CL	56.06	56.41	(岩級区分欄)CLに含める	-
158	56.41	57.09	(割れ目状態欄)○ランク	56.41	57.09	(割れ目状態欄)○ランク	56.41	57.09	(割れ目状態欄)○ランク	-
159	56.45	56.61	高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	56.45	56.61	高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	56.45	56.61	56.45～56.61m:高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。 *表観の適正化(交叉⇒交差)	-
160	56.74	56.74	71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm挟在。	-	-	-	56.74	56.74	56.74m:71°で幅3mmの褐色粘土を挟む。	-
161	56.88	56.88	約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越。一部硬状コアとなる。	-	-	-	56.88	56.88	56.88～56.88m:約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部硬状となる。	-
162	57.24	58.50	この間、多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	-	-	-	57.24	58.50	57.24～58.50m:多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	-
163	57.41	57.41	(岩級区分欄)CM	57.41	57.54	(岩級区分欄)CL	57.41	57.54	(岩級区分欄)CLに含める	-
164	57.54	57.74	割れ目沿いに劣化。軟質・脆弱。	57.54	57.74	傾斜50～60°の割れ目沿いに劣化。軟質・脆弱。幅1～3mmの黄褐色粘土を挟む。	57.54	57.74	57.54～57.74m:傾斜50～60°の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1～3mmの黄褐色粘土を挟む。 *傾斜及び割れ目の挟在物について追記した	-

# H27-B-4 57.91~64.30m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
165	57.91	58.71	(割れ目状態欄)Cランク	57.91	58.71	(割れ目状態欄)Bランク	*挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをCランクに変更した。	57.91	58.71	(割れ目状態欄)Bランク	-	-
166	57.91	58.06	(岩級区分欄)CL	57.91	58.06	(岩級区分欄)CM	*上記の変更に伴い、岩級区分を変更した。	57.91	58.06	(岩級区分欄)CM	-	-
167	58.06	58.71	砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが、岩質は硬い。	58.06	58.71	砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。	*挟在物を伴う割れ目は少ないため削除した。	58.06	58.71	58.06~58.71m:岩質は硬い。	-	-
168	58.71	59.02	(岩級区分欄)CL	58.71	59.02	(岩級区分欄)CM	*区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	58.71	59.02	(岩級区分欄)CMに含める	-	-
169	59.02	59.34	潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア。岩質も硬い。	-	-	-		59.02	59.34	59.02~59.34m:潜在割れ目を除き、割れ目のない柱状コアで、岩質も硬い。	-	-
170	59.02	59.34	(岩級区分欄)CH	59.02	59.34	(岩級区分欄)CM	*区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	59.02	59.34	(岩級区分欄)CMに含める	-	-
171	60.07	60.45	微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹み所が多く、ザラつく。	60.07	60.45	微細な割れ目が卓越し、変質によりコアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹み所が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が割れ目状に分布している。	*軟質化の原因について追記した。 *割れ目の粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。	60.07	60.45	60.07~60.45m:微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹み所が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が割れ目状に分布する。	-	-
172	60.45	60.82	(変質欄)3ランク	60.45	60.82	(変質欄)2ランク	*上位に比べて変質の程度が弱いので変質のランクを2ランクに変更した。	60.45	60.82	(変質欄)2ランク	-	-
173	60.45	60.82	低~中角度の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が顕著。	60.45	60.82	30~60°の平行に近い割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染が顕著。	*低~中角度を具体的な数値に変更した。	60.45	60.82	60.45~60.82m:30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が顕著である。	-	-
174	60.82	61.72	微細な割れ目が卓越。コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著。	60.82	61.72	微細な割れ目が卓越。にぶい橙色の粘土が割れ目状に分布する。コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	*割れ目状の粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。 *砂礫状を呈することは周囲と異なる状況であるため追記した。	60.82	61.72	60.82~61.72m:微細な割れ目が卓越し、にぶい橙色の粘土が割れ目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	-	-
175	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。コアは軟質となり、表面がザラつく。	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。コアは軟質となり、表面がザラつく。	*割れ目沿いの褐色汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。 *表面がザラつくの記載は、深度が不明で、かつ、コアが硬くなることと矛盾しているため削除した。	61.72	62.36	61.72~62.36m:コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。	-	-
176	61.72	62.36	(割れ目状態欄)Cランク (変質欄)3ランク	61.72	62.36	(割れ目状態欄)Bランク (変質欄)2ランク	*挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをCランクに変更した。 *上位に比べて変質の程度が弱いので変質のランクを2ランクに変更した。	61.72	62.36	(割れ目状態欄)Bランク (変質欄)2ランク	-	-
177	62.36	63.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優位な不規則で微細な割れ目が卓越する。	62.36	63.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優位な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	*記載の修正(優性⇒優劣) *粘土の挟在について追記した。	62.36	63.25	62.36~63.25m:コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優位な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	-	-
178	-	-	-	62.40	62.52	長石の白濁化が目立つ	*周囲と異なる状況であるため追記した。	62.40	62.52	62.40~62.52m:長石の白濁化が目立つ。	-	-
179	62.75	62.75	剪断性の割れ目(管理)。幅10mmややや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著。	62.75	62.75	傾斜65°のせん断性の割れ目(管理)。幅10mmでやや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続的に変質し、同系統の割れ目は白色脈を横断している。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	*傾斜について追記した。 *表現の統一(せん断) *説明の追記 *挟在物の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 *追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した。	62.75	62.75	62.75m:傾斜65°で幅10mmでややや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著である。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続的に変質し、同系統の割れ目は白色脈を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-
180	63.00	63.26	劣化し全体に軟質。脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。	-	-	-		63.00	63.26	63.00~63.26m:劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。	-	-
181	-	-	-	63.26	63.62	上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	*周囲に比べて変質の程度が弱くなることについて追記した。 *割れ目の挟在物が目立つため追記した。	63.26	63.62	63.26~63.62m:上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	-	-
182	63.26	63.62	(変質欄)3ランク	63.26	63.62	(変質欄)2ランク	*周囲に比べて変質の程度が弱いので変質のランクを2ランクに変更した。	63.26	63.62	(変質欄)2ランク	-	-
183	63.62	63.90	全体に軟質。脆弱。亀甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。	-	-	-		63.62	63.90	63.62~63.90m:全体に軟質で、亀甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	-	-
184	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)Dランク	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)Eランク	*上位に比べて軟質化しているためコアの硬さのランクをDランクに変更した。	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)Eランク	-	-
185	63.90	63.30	変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。	63.90	64.30	強く変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織が認められる。	*記載の修正(下端深度63.30⇒64.30) *粘土化が進んでいるため「強く変質していること」を追記した。 *変質部ではないことを示すために母岩の組織の有無について追記した。	63.90	64.30	63.90~64.30m:強く変質し軟質で、割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織は認められる。	-	-
186	63.90	63.30	(コアの硬さ欄)Dランク	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)Eランク	*記載の修正(下端深度63.30⇒64.30) *粘土化し軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した。	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)Eランク	-	-

# H27-B-4 64.30~67.75m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
		コア観察カードから正しく転記されているか?				追加変更した情報が正しく転記されているか?					
187	-	-	-	64.30	64.65	上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	・変質部と破砕部に挟まれる区間について追記した	64.30	64.65	64.30~64.65m:上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	-
188	64.30	64.65	(変質欄)3ランク (岩級区分欄)GL	64.30	64.65	(変質欄)2ランク (岩級区分欄)D	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	64.30	64.65	(変質欄)2ランク (岩級区分欄)Dに含める	-
189	64.65	64.91	破砕帯	64.65	64.91	破砕部 最新活動面は64.74mか64.80mの可能性がある。	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面について追記した	64.65	64.91	●64.65~64.91m:破砕部 粘土混じり砂状部(H) 上端65°で直線的に連続。下端65°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで伴う。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1~3mmの灰~灰白色シルト(Hc-2)を挟む。全体にはふい黄褐色を呈する。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
190	64.65	64.65	上盤65°、粘土3mm	64.65	64.65	上盤65°、やや軟質な暗灰色粘土を幅3mmで伴う。一部不連続。	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した ・挟在する粘土の硬軟、色調、連続性を追記した ・3mmが幅であることを明記した	64.65	64.65	-	-
191	-	-	-	64.74	64.74	傾斜60°、幅1mm以下の硬質な灰~灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	・直線性が良い細粒部を挟在するため追記した	64.74	64.74	-	-
192	-	-	-	64.80	64.80	傾斜60°、幅1~3mmの硬質な灰~灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	・直線性が良い細粒部を挟在するため追記した	64.80	64.80	-	-
193	64.91	64.91	下盤65°(やや不明瞭)。これより上位硬軟。上下盤の間に剪断面2条あり。	64.91	64.91	下盤65°(やや不明瞭)。これより上位(64.80~64.91m間)は硬軟。上下盤の間にせん断面2条あり。全体に粘土混じり砂状部(H)でやや硬質。含まれる灰白色粘土は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。ふい黄褐色を呈する。	・下盤側が必ずしも下盤とは限らないため下盤に変更した。上盤も同様。 ・上位の区間深度を明記した ・表視の統一(せん断) ・破砕部内物質、破砕区分、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調について追記した	64.91	64.91	-	-
194	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)0ランク	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク	・硬さを区別してコアの硬さのランクをBランクに変更した	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク	-
195	64.91	65.59	(変質欄)3ランク	64.91	65.59	(変質欄)2ランク	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	64.91	65.59	(変質欄)2ランク	-
196	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)0ランク	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク	・割れ目が多いが、やや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク	-
197	65.59	65.72	破砕される。110mm、砂~塵状。65.59m、65°、上盤。65.72、62°、下盤。部分的に灰白色粘土2~3mm、明瞭なガウジは無い。	65.59	65.72	破砕部。 幅110mm、粘土混じり砂~塵状。径2~30mmの岩片主体で、一部砂状化する。Hc、灰色を呈する。全体に軟質、含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。 65.59m、65°、上盤、直線的に連続。 65.72m、30°、下盤、不明瞭。部分的に灰白色粘土2~3mm、明瞭なガウジ粘土は無い。 最新活動面は65.65m最も直線的で不連続ながら細粒部を伴う。 65.65m、傾斜65°、幅2~3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。	・表視の統一(破砕される→破砕部) ・破砕区分を明記した ・破砕部内物質、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調について追記した ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。下盤も同様。 ・上盤境界の直線性について追記した ・傾斜の修正(65.72の単位漏れ) ・下盤の粘土はコアでは不明なため記載を削除した ・下盤の硬軟を変更した ・表視の統一(ガウジ粘土) ・最新活動面を認定し、65.65mの面について追記した	65.59	65.72	●65.59~65.72m:破砕部 粘土混じり砂状部(H) 上盤65°で直線的に連続。下盤30°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で、一部砂状化する。灰色を呈する。幅110mm、65.65mには傾斜65°で幅2~3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
198	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)0ランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状況欄)0ランク (変質欄)3ランク (破砕区分欄)-	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状況欄)0ランク (変質欄)4ランク (破砕区分欄)H	・上記の破砕部に対応するランクを追記した	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状況欄)0ランク (変質欄)4ランク (破砕区分欄)H	-
199	-	-	-	65.72	65.85	網目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う。	・網目状粘土は周囲と異なる状態であるため追記した	65.72	65.85	65.72~65.85m:網目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う。	-
200	-	66.30	割れ目が直線し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	65.85	66.30	傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	・上盤側を明記した ・割れ目の傾斜について追記した ・様々な方向の割れ目が見られるため表視を適正化した	65.85	66.30	65.85~66.30m:傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	-
201	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)0ランク (変質欄)3ランク	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)2ランク	・コアはやや硬質であることが多いためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)2ランク	-
202	66.30	67.28	割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に、66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著。	-	-	-		66.30	67.28	66.30~67.28m:割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	-
203	66.97	67.28	割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	66.97	67.28	割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	・表視の適正化(交叉⇒交差)	66.97	67.28	66.97~67.28m:割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	-
204	67.28	67.78	変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。	67.28	67.78	変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。 破砕部の境界は明確であるが湾曲している。上盤側は低角度の割れ目で埋められる。原岩組織は不明瞭。含まれる岩片に定向配列などは見られない。	・下盤側をコアに合わせて変更した ・変質部の性状や境界、原岩組織の有無などについて追記した	67.28	67.78	67.28~67.78m:変質部で、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化が進む。破砕部との境界は明確であるが湾曲している。上盤側は低角度の割れ目で埋められる。原岩組織は不明瞭で含まれる岩片に定向配列などは見られない。	-

# H27-B-4 67.28~72.24m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
205	67.28	67.75	(岩級区分欄)D (破砕度区分欄)Hb	67.28	67.75	(岩級区分欄)CL (破砕度区分欄)-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた破砕部ではないため破砕度区分は削除した。	67.28	67.75	(岩級区分欄)CLに含める (破砕度区分)-	-	-	-
206	-	-	-	67.85	68.70	傾斜30°~50°程度の割れ目が主体。特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達している。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。	同系統の割れ目が発達していることは周囲と異なる状況であるため追記した。	67.85	68.70	67.85~68.70m:傾斜30°~50°程度の割れ目が主体で、特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達する。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。	-	-	-
207	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)0ランク	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)0ランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した。	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)0ランク	-	-	-
208	67.85	80.13	(変質欄)3ランク	67.85	80.13	(変質欄)2ランク	変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した。	67.85	80.13	(変質欄)2ランク	-	-	-
209	68.07	-	割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	68.07	68.97	割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	割れ目の記載は、深度67.85~68.70mの記載に含めたため削除した。	68.07	68.97	68.07~68.97m:コアは軟質で表面がザラつく。	-	-	-
210	68.70	68.70	30°の割れ目。黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。	68.70	68.70	30°の割れ目。黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。割れ目の周辺は幅5~10mm程度で緑色化が顕著。	割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	68.70	68.70	68.70m:30°で幅8mmの黄褐色粘土を挟む。割れ目の周辺は幅5~10mm程度で緑色化が顕著である。	-	-	-
211	-	-	-	68.70	68.97	傾斜70°~90°の割れ目が多い。	高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。	68.70	68.97	68.70~68.97m:傾斜70°~90°の割れ目が多い。	-	-	-
212	68.97	69.08	細塵~砂状コア。粘土なし。	-	-	-	-	68.97	69.08	68.97~69.08m:細塵~砂状を呈するが、粘土は挟まない。	-	-	-
213	68.97	69.08	(岩級区分欄)D	68.97	69.08	(岩級区分欄)CL	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	68.97	69.08	(岩級区分欄)CLに含める	-	-	-
214	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)0ランク	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)0ランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した。	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)0ランク	-	-	-
215	69.28	69.33	割れ目沿いに劣化。相模状となる。	-	-	-	-	69.28	69.33	69.28~69.33m:割れ目沿いに劣化し、相模状となる。	-	-	-
216	-	-	-	69.59	69.59	傾斜30°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。	割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	69.59	69.59	69.59m、69.70m:傾斜25~30°の割れ目沿いにわずかに緑色化する。	-	-	記事内容が同じであるため、69.70mの深度も含めて記載した。
217	69.63	69.77	高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が顕著。	69.63	69.77	50°~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が顕著。	割れ目の傾斜を追記した。 *表現の適正化(交叉⇒交差)	69.63	69.77	69.63~69.77m:50°~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交叉し、高角度の割れ目沿いに劣化が顕著である。	-	-	-
218	-	-	-	69.70	69.70	傾斜25°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。	割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	-	-	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
219	69.85	70.00	割れ目密集。岩片状コア。	-	-	-	-	69.85	70.00	69.85~70.00m:割れ目が密集し、岩片状を呈する。	-	-	-
220	70.06	70.06	付近、60°、幅20mm~30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。	70.06	70.06	付近、60°、幅20~30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。割れ目沿いの細粒部の分布は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	*20mmの域に6mmを削除した。 *破砕されていると記載の脆弱部は原岩組織が認められ、岩片の移動や回転が見られない。 *存在する細粒部及び脆弱部の連続性、脆弱部及び周辺岩壁の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 *上記及び追記した理由から破砕部ではないと判断して「弱く破砕され」を削除した。	70.06	70.06	70.06m付近、傾斜60°で幅20~30mmが局所的に脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	-
221	-	-	-	70.06	70.06	傾斜55°で幅3~10mmの灰白色粘土を挟む。	幅広い粘土の挟在物は周囲と異なる状況であるため追記した。	70.06	70.06	70.06m:傾斜55°で幅3~10mmの灰白色粘土を挟む。	-	-	-
222	70.08	71.20	(割れ目状態欄)0ランク	70.08	71.20	(割れ目状態欄)0ランク	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを0ランクに変更した。	70.08	71.20	(割れ目状態欄)0ランク	-	-	-
223	-	-	-	70.91	72.00	アプライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明。	脈の含有率が5%未満であるためアプライトに変更した。	70.91	72.00	70.91~72.00m:アプライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明である。	-	-	-
224	71.22	71.25	71.22m、60°、71.25m、54°、断続性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。割れ目に挟在する幅1mm以下の黄灰色粘土は不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	71.22	71.25	71.22m、60°、71.25m、54°、せん断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。割れ目に挟在する幅1mm以下の黄灰色粘土は不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	*表現の統一(せん断) *下斜側の面は凹凸があり、その堆み合わせは良い。 *挟在物の連続性及び原岩組織の有無について追記した。 *上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した。	71.22	71.25	71.22m、60°、71.25m、54°の割れ目間が幅20~30mmで脆弱となる。割れ目に幅1mm以下の黄灰色粘土を挟むが、不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	-	-	-
225	-	-	-	71.13	71.38	褐色化している。	褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	71.13	71.38	71.13~71.38m:褐色化する。	-	-	-
226	-	-	-	71.25	71.33	マンガン汚染が顕著。	マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	71.25	71.33	71.25~71.33m:マンガン汚染が顕著である。	-	-	-
227	71.25	72.73	この間、やや軟質でコア表面はザラつく。	-	-	-	-	71.25	72.73	71.25~72.73m:やや軟質でコア表面はザラつく。	-	-	-
228	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)0ランク	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)0ランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した。	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)0ランク	-	-	-
229	-	-	-	72.24	72.24	傾斜53°で幅1~3mmのマンガンを挟む。	マンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	72.24	72.24	72.24m:傾斜53°で幅1~3mmのマンガンを挟む。	-	-	-

# H27-B-4 72.33~77.67m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容			
230	72.33	72.33		72.33	72.33	32°の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と凝集物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。	32°の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と凝集物と思われる暗緑灰色の硬質な砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。細粒物周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	腐植土ではないため削除した。 周辺の岩盤に劣化が見られず、細粒物中の岩片に定向配列などが見られなため凝集物ではないと判断して「凝集物」を削除した。 マンガン汚染された砂からなるためその旨の記載に変更した。 細粒物周辺の岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 表裏の統一(固い⇒硬質な)	72.33	72.33	72.33m:32°の割れ目に幅8~15mmのマンガンに汚染された暗緑灰色の硬質な砂を挟む。細粒物周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
231	-	-	-	72.41	72.41	傾斜65°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	傾斜65°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	灰白色粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	72.41	72.41	72.41m:傾斜65°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	-
232	-	-	-	72.46	72.46	傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを含む。径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを含む。径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	マンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	72.46	72.46	72.46m:傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを含む。径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	-
233	72.48	72.91	(割れ目状態欄)hランク	72.48	72.91	(割れ目状態欄)hランク	(割れ目状態欄)hランク	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した。	72.48	72.91	(割れ目状態欄)hランク	-
234	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)hランク	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)hランク (割れ目状態欄)hランク	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)hランク (割れ目状態欄)hランク	コアは硬質で、割れ目も少なく、挟在物を伴わないためコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態の各ランクを変更した。	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)hランク	-
235	73.56	73.56	65°の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む。	73.56	73.56	65°の割れ目に暗褐色にマンガン汚染されたシルト質の砂を幅4~10mm挟む。	65°の割れ目に暗褐色にマンガン汚染されたシルト質の砂を幅4~10mm挟む。	マンガンによる汚染であることを追記した。 幅であることを追記した。	73.56	73.56	73.56m:65°で幅4~10mmのマンガン汚染された暗褐色のシルト質砂を挟む。	-
236	74.16	74.34	30°~50°の割れ目が密集する。脆弱。	-	-	-	-	脆弱な割れ目が発達し、マンガンが濃集する。上下端の境界は45°程度で凹凸が著しい。	74.16	74.34	74.16~74.34m:30~50°の割れ目が密集し、脆弱である。	-
237	-	-	-	74.16	74.23	傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。周囲は細片化している。	74.16	74.23	74.16~74.23m:微細な割れ目が発達し、マンガンが濃集する。上下端の境界は45°程度で凹凸が著しい。	-
238	74.19	74.34	(コアの形状欄)Vランク	74.19	74.34	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	割れ目が密集しているためコアの形状のランクをVランクに変更した。	74.19	74.34	(コアの形状欄)Vランク	-
239	-	-	-	74.32	74.32	傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	74.32	74.32	74.32m:傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	-
240	74.34	75.18	(割れ目状態欄)hランク	74.34	75.18	(割れ目状態欄)hランク	(割れ目状態欄)hランク	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した。	74.34	75.18	(割れ目状態欄)hランク	-
241	-	-	-	74.63	74.63	傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化している。	傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化している。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	74.63	74.63	74.63m:傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化する。	-
242	75.00	75.18	(コアの硬さ欄)Cランク	75.00	75.18	(コアの硬さ欄)Bランク	(コアの硬さ欄)Bランク	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した。	75.00	75.18	(コアの硬さ欄)Bランク	-
243	75.05	75.29	20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。	-	-	-	-	割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	75.05	75.29	75.05~75.29m:20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。	-
244	75.77	76.25	割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	75.97	76.25	割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	傾記の修正(75.77⇒75.97)	75.97	76.25	75.97~76.25m:割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	-
245	-	-	-	76.17	76.17	傾斜51°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進んでいる。	傾斜51°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進んでいる。	粘土の挟在と網目状の粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。	76.17	76.17	76.17m:傾斜51°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進む。	-
246	-	-	-	76.25	77.80	アブライト径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆるぎ不明瞭。	アブライト径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆるぎ不明瞭。	凝集物の含有量が少ないため花崗岩をアブライトに変更し、アブライトの構成鉱物や花崗岩との境界の性状について追記した。	76.25	77.80	76.25~77.80m:アブライト径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆるぎ不明瞭。	-
247	76.25	77.80	(地質名欄)Ca	76.25	77.80	(地質名欄)Ap	(地質名欄)Ap	上記に合わせて地質名を変更した。	76.25	77.80	(地質名欄)アブライト	-
248	-	-	-	76.61	76.61	傾斜54°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。	傾斜54°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	76.61	76.61	76.61m:傾斜54°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。	-
249	-	-	-	76.80	76.80	傾斜45°で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。	傾斜45°で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	76.80	76.80	76.80m:傾斜45°で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。	-
250	-	-	-	76.90	76.90	傾斜50°で幅1~3mmのマンガンを含む。	傾斜50°で幅1~3mmのマンガンを含む。	マンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	76.90	76.90	76.90m:傾斜50°で幅1~3mmのマンガンを含む。	-
251	-	-	-	77.19	77.19	傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。	傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	77.19	77.19	77.19m:傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。	-
252	77.47	77.67	(コアの硬さ欄)Dランク	77.48	77.67	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Dランク	傾記の修正(77.47⇒77.48)	77.48	77.67	(コアの硬さ欄)Dランク	-
253	77.48	77.67	割れ目、特に低角度のもの沿いに劣化が見られ、コアは軟質となりザラつく。	77.48	77.67	割れ目、特に20°程度の低角度のもの沿いに劣化が見られ、コアは軟質となりザラつく。77.55~77.60m間はマンガンが濃集する。	割れ目、特に20°程度の低角度のもの沿いに劣化が見られ、コアは軟質となりザラつく。77.55~77.60m間はマンガンが濃集する。	低角度の割れ目について具体的な数値を追記した。 マンガンの濃集は周囲と異なる状況であるため追記した。	77.48	77.67	77.48~77.67m:20°程度の低角度割れ目沿いに劣化が見られ、コアは軟質でザラつく。77.55~77.60m間はマンガンが濃集する。	-

# H27-B-4 77.67~83.32m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
254	77.67	77.94	(割れ目状態欄) bランク	77.67	77.94	(割れ目状態欄) bランク	77.67	77.94	(割れ目状態欄) bランク	-
255	77.96	78.08	割れ目に沿って劣化が見られ、砂状の挟在物が明確。	77.96	78.08	割れ目に沿って劣化が見られ、黄褐色の砂状の挟在物が明確。	77.96	78.08	77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂状の挟在物を伴う。	-
256	78.21	78.51	多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱。	78.21	78.51	多方向の割れ目が見られ、やや脆弱。	78.21	78.51	78.21~78.51m: 多方向の割れ目が見られ、やや脆弱である。	-
257	-	-	-	78.29	78.29	傾斜24°で幅10mm程度が砂~細片状を呈する。	78.29	78.29	78.29m: 傾斜24°で幅10mm程度が砂~細片状を呈する。	-
258	-	-	-	78.47	78.71	割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。	78.47	78.71	78.47~78.71m: 割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。	-
259	78.47	78.71	(割れ目状態欄) cランク	78.47	78.71	(割れ目状態欄) bランク	78.47	78.71	(割れ目状態欄) bランク	-
260	78.90	79.03	(コアの形状欄) Vランク (遊級区分欄) CL	78.90	79.03	(コアの形状欄) Vランク (遊級区分欄) CM	78.90	79.03	(コアの形状欄) Vランク (遊級区分欄) CMに含める	-
261	79.23	79.67	(遊級区分欄) CL	79.23	79.67	(遊級区分欄) CM	79.23	79.67	(遊級区分欄) CMに含める	-
262	79.45	79.52	マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	79.45	79.52	マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	79.45	79.52	79.45~79.52m: 短い筋状のマンガン汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	-
263	79.67	80.13	(割れ目状態欄) cランク	79.67	80.13	(割れ目状態欄) bランク	79.67	80.13	(割れ目状態欄) bランク	-
264	79.67	79.82	(遊級区分欄) CL	79.67	79.82	(遊級区分欄) CM	79.67	79.82	(遊級区分欄) CM	-
265	80.13	80.29	35~55°の同方向の割れ目が密集する。	80.13	80.29	35~55°の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立つ。灰色も見られる。	80.13	80.29	80.13~80.29m: 35~55°の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立ち、灰色も見られる。	-
266	80.13	80.51	(遊級区分欄) CL	80.13	80.51	(遊級区分欄) CM	80.13	80.51	(遊級区分欄) CMに含める	-
267	80.29	80.51	割れ目の傾度はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明確。	-	-	-	80.29	80.51	80.29~80.51m: 割れ目はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明確である。	-
268	80.29	84.46	(実質欄) 3ランク	80.29	84.46	(実質欄) 2ランク	80.29	84.46	(実質欄) 2ランク	-
269	80.51	81.02	割れ目には挟在物が見られるものが多いが、岩質は硬い。	80.51	81.02	割れ目には挟在物が見られず、岩質は硬い。	80.51	81.02	80.51~81.02m: 割れ目には挟在物が見られず、岩質は硬い。	-
270	80.51	81.02	(コアの形状欄) Vランク (割れ目状態欄) bランク (遊級区分欄) CM	80.51	81.02	(コアの形状欄) IIランク (割れ目状態欄) bランク (遊級区分欄) CH	80.51	81.02	(コアの形状欄) IIランク (割れ目状態欄) bランク (遊級区分欄) CH	-
271	81.02	81.30	(コアの硬さ欄) Cランク (遊級区分欄) CL	81.02	81.30	(コアの硬さ欄) Bランク (遊級区分欄) CM	81.02	81.30	(コアの硬さ欄) Bランク (遊級区分欄) CM	-
272	81.30	81.96	割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している。	81.30	81.96	割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。90°の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している。	81.30	81.96	81.30~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質である。90°の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着する。	-
273	81.30	82.70	(割れ目状態欄) bランク	81.30	82.70	(割れ目状態欄) bランク	81.30	82.70	(割れ目状態欄) bランク	-
274	82.48	82.83	(コアの硬さ欄) Cランク	82.48	82.83	(コアの硬さ欄) Bランク	82.48	82.83	(コアの硬さ欄) Bランク	-
275	81.96	82.83	(遊級区分欄) CL	81.96	82.83	(遊級区分欄) CM	81.96	82.83	(遊級区分欄) CM	-
276	-	-	-	82.70	82.70	傾斜50°前後の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	82.70	82.83	82.70m, 82.83m: 傾斜50°前後で幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	記事内容が同じであるため、82.83mの深度も含めて記載した
277	-	-	-	82.83	82.83	傾斜50°前後の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
278	82.83	83.32	(遊級区分欄) CL	82.83	83.32	(遊級区分欄) CM	82.83	83.32	(遊級区分欄) CMに含める	-
279	83.08	83.32	割れ目に沿った褐色汚染が顕微、汚染は、割れ目沿いのみならず、コアの半分程度に及ぶ。	83.08	83.32	40°前後の割れ目に沿った褐色汚染が顕微、汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達している。	83.08	83.32	83.08~83.32m: 40°前後の割れ目沿いに褐色汚染が顕微である。汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達する。	-

# H27-B-4 83.31~89.27m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
280	-	-	-	83.31	83.31	傾斜38°前後の割れ目に幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	83.31	83.31	83.31m: 傾斜38° 前後で幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	-	-	-
281	83.32	84.09	(割れ目状態欄)cランク	83.32	84.09	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	83.32	84.09	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-
282	84.09	84.77	割れ目が連続し、岩質も軟質となる。特に84.39~85.58間は劣化が進み、脆弱。	84.09	84.77	多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質となる。特に84.19~84.18m、84.39~84.38m間は劣化が進み脆弱。黄色味を帯びて細片状を呈する。	・不規則な割れ目が発達していることについて追記した。 ・劣化が進んだ区間を追記した。 ・傾記の修正(85.58⇒84.58m、深度の間違いと単位忘れ) ・劣化の性状について追記した。	84.09	84.77	84.09~84.77m: 多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質である。特に84.15~84.18m、84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱である。黄色味を帯びて細片状を呈する。	-	-	-
283	84.58	93.13	(変質欄)3ランク	84.58	93.13	(変質欄)2ランク	・変質の程度が軽いため変質のランクを2ランクに変更した。	84.58	93.13	(変質欄)2ランク	-	-	-
284	84.81	84.94	(コアの形状欄)Vランク	84.81	84.94	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	84.81	84.94	(コアの形状欄)IVランク	-	-	-
285	84.81	85.86	(割れ目状態欄)cランク	84.81	85.86	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	84.81	85.86	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-
286	84.81	85.73	(岩級区分欄)CL	84.81	85.73	(岩級区分欄)CM	・上記のコアの形状及び割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した。	84.81	85.73	(岩級区分欄)CM	-	-	-
287	85.73	85.97	高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越。岩片状となる。	85.73	85.97	70~90°の高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達。岩片状となる。	・高角度の割れ目について具体的な数値を追記した。 ・表現の適正化(卓越⇒発達)	85.73	85.97	85.73~85.97m: 70~90°の高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達。岩片状となる。	-	-	-
288	85.73	85.97	(岩級区分欄)CL	85.73	85.97	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	85.73	85.97	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	-
289	85.97	86.73	(割れ目状態欄)cランク	85.97	86.73	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	85.97	86.73	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-
290	85.97	86.14	(岩級区分欄)CL	85.97	86.14	(岩級区分欄)CM	・上記の割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した。	85.97	86.14	(岩級区分欄)CM	-	-	-
291	86.73	86.83	上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる。	86.73	86.83	上端37°、下端40°の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に明褐色の砂~礫状となる。	・割れ目の傾斜を具体的に追記した。 ・砂~礫状の色調を追記した。	86.73	86.83	86.73~86.83m: 上端37°、下端40°の割れ目に挟まれた区間で局所的に明褐色の砂~礫状となる。	-	-	-
292	86.73	86.83	(岩級区分欄)D	86.73	86.83	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	86.73	86.83	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	-
293	86.83	86.96	(割れ目状態欄)cランク	86.83	86.96	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	86.83	86.96	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-
294	86.83	88.16	(コアの形状欄)Wランク (岩級区分欄)CM	86.83	88.16	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	86.83	88.16	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-	-	-
295	86.96	88.03	割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。	86.96	88.03	傾斜60°前後の割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。	・割れ目沿いの褐色は深度86.83mにも見られるため、上端深度を変更した。 ・割れ目の傾斜を具体的に追記した。	86.96	88.03	86.96~88.03m: 傾斜60°前後の割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られず、岩質も硬い。	-	-	-
296	-	-	-	87.11	87.11	傾斜60°で幅5mm程度が緑色化している。	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	87.11	87.11	87.11m: 傾斜60°で幅5mm程度が緑色化する。	-	-	-
297	88.03	88.16	(割れ目状態欄)cランク	88.03	88.16	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	88.03	88.16	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-
298	88.26	88.62	(岩級区分欄)CL	88.26	88.62	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	88.26	88.62	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	-
299	-	-	-	88.59	88.59	傾斜43°の割れ目に幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化している。	・粘土の挟在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	88.59	88.59	88.59m: 傾斜43°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化する。	-	-	-
300	88.62	88.88	(割れ目状態欄)cランク	88.62	88.88	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	88.62	88.88	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-
301	88.88	89.00	(岩級区分欄)CL	88.88	89.00	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	88.88	89.00	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	-
302	88.96	88.96	45°の割れ目の下盤劣化し局所的に非常に脆弱。上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭。	88.96	88.96	45°の割れ目の下盤劣化し局所的に非常に脆弱。上盤側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染がコアに明瞭に見られる。	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・傾記の修正(局所⇒局所的) ・表現の適正化(巾⇒幅) ・酸化汚染も見られるため追記した。 ・文章の適正化。	88.96	88.96	88.96m: 45°の割れ目の下盤側が劣化し局所的に非常に脆弱である。上盤側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染が明瞭に見られる。	-	-	-
303	89.00	89.27	(割れ目状態欄)cランク	89.00	89.27	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した。	89.00	89.27	(割れ目状態欄)bランク	-	-	-

# H27-B-4 89.27~93.88m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
304	89.27	89.44	微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質。 (岩級区分欄)CL	89.27	89.44	傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5~3cm程度の 間隔で発達する。コアも幾分軟質。 (岩級区分欄)CM	・割れ目の傾斜や間隔について追記した。 ・表現の適正化(卓越⇒発達)	89.27	89.44	89.27~89.44m:傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5~3cm程度の 間隔で発達し、コアもやや軟質である。 (岩級区分欄)CMに含める	-
305	89.27	89.44	(割れ目状態欄)hランク	89.44	90.36	(割れ目状態欄)hランク	・接在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに 変更した	89.44	90.36	(割れ目状態欄)hランク	-
306	89.44	90.36	(岩級区分欄)CL	89.44	89.50	(岩級区分欄)CM	・上記の割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した	89.44	89.50	(岩級区分欄)CM	-
307	89.44	89.50	(RQD欄)20	89.00	90.00	(RQD欄)0	・原記の修正(最大コア長が8cmであるため、RQDは0となる)	89.00	90.00	(RQD欄)0	-
308	89.00	90.00		90.64	90.64	傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを含む。周辺は 幅1cm程度緑色化している。	・マンガンの接在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記し た	90.64	90.64	90.64m:傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを含む。周辺は幅1cm程度 緑色化する。	-
310	90.75	91.96	微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ 目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目と 切られるものが多い。	90.75	91.96	微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ 目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目と 切られるものが多い。50°以下の割れ 目止まっているに切られるものが多い。50°以下の割 れ目周辺の割れ目は伴わない。もしくは途中でせん 断。連続性に乏しく、割れ目周辺の割れ目には原岩 組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・50°以下の低角度ではないため「低角度」の記載を削除した ・50°以下の顕在化した割れ目と切られているものが多い。50°以下の割 れ目周辺の割れ目は伴わない。系統的な割れ目について追記した ・低角度割れ目と切られているとした高角度割れ目は、切っている低 角度割れ目と比べて対比できる高角度割れ目が見られない ことから、切っていることと判断することができないため「止まっている」に 変更した	90.75	91.96	90.75~91.96m:微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、 50°以下の顕在化した割れ目と止まっているものが多い。50°以下の割 れ目に割れ目は伴わない。もしくは途中でせん断。連続性に乏しく、割れ 目周辺の割れ目には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
311	91.45	91.45	48°断続性の割れ目(節理)。幅6mmで幾分破碎 され、緑色味を帯びる。	91.45	91.45	48°せん断性の割れ目(節理)。幅6mmで幾分破 碎され、緑色味を帯びる。 接在する細粒部はせん断する。割れ目周辺の岩盤 には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在 しない。	・表現の統一(せん断) ・接在する細粒部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的 な割れ目の有無について追記した ・追記した理由から破碎部及びせん断性割れ目ではないと判断して 「幾分破碎され」と「せん断性」を削除した	91.45	91.45	91.45m:48°で幅6mmで緑色を帯びる。割れ目に接在する細粒部はせん 断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も 存在しない。	-
312	92.55	92.71	高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。 岩質もやや軟質である。	92.55	92.71	多方向の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もや や軟質である。	・あらゆる方向の割れ目が分布するため記載を変更した ・表現の適正化(交叉⇒交差)	92.55	92.71	92.55~92.71m:多方向の割れ目が交叉し亀甲状となる。岩質もやや軟質 である。	-
313	-	-	-	92.94	92.96	傾斜27~40°の2条の割れ目に挟まれた区間が黄 色味を帯びる。やや軟質。	・黄色味を帯びることは周囲と異なる状況であるため追記した	92.94	92.96	92.94~92.96m:傾斜27~40°の2条の割れ目に挟まれた区間が黄色味を 帯びてやや軟質である。	-
314	93.13	93.22	破碎部	93.13	93.22	破碎部(最新活動面は93.13mか93.14mの可能性が ある)	・用語の統一(破碎部→破碎部) ・最新活動面について追記した	93.13	93.22	●93.13~93.22m:破碎部 93.13~93.14m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30° 淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m:粘土混じり陳状部(H) 上端30°、下端50°でいずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体 で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅 67mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織 の有無、境界部や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示す こととし、柱状図には記載しない。
315	93.13	93.13	上端30°、粘土12mm、主	93.13	93.14	上端30°、粘土12mm主 軟質な淡黄色粘土(Hc-1)。直線的に連続する。原 岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化 した岩片からなる組織は見られない。	・下端境界について追記した ・「主」は、主せん断面のことであるが、コア観察で93.13mか93.14m が判断できないため削除した ・粘土の硬軟、色調、破碎度区分、連続性・直線性、原岩組織が認 められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織につい て追記した	93.13	93.22	●93.13~93.22m:破碎部 93.13~93.14m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30° 淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m:粘土混じり陳状部(H) 上端30°、下端50°でいずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体 で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅 67mm。	-
316	93.22	93.22	下盤50°粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土 脈が見られる。	93.14	93.22	粘土混じり陳状部(H) にぶい黄褐色を呈する。上盤30°、下盤50°、径2 ~10mmの岩片主体。軟質であるが、含まれる灰白 色粘土細脈は局所的に分布する。原岩組織が認め られる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片から なる組織は見られる。幅57mm。	・上端深度について追記し、本区間の破碎部の破碎部内物質、破碎 度区分、色調、上端下端境界の傾斜、硬軟、細粒部の連続性・直線 性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片か らなる組織、真幅について追記した	93.13	93.22	●93.13~93.22m:破碎部 93.13~93.14m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30° 淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m:粘土混じり陳状部(H) 上端30°、下端50°でいずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体 で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅 67mm。	-
317	93.13	93.22	(コアの硬さ欄)Iランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)hランク	93.13	93.22	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)hランク	・上記の破碎部の区間のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態の各 ランクを区分して変更した	93.13	93.22	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)hランク	-
318	-	-	-	93.13	93.14	(破碎度区分)Hc-1	・上記の記載に合わせて破碎度区分を追記した	93.13	93.14	(破碎度区分)Hc-1	-
319	-	-	-	93.14	93.22	(破碎度区分)Hj	・上記の記載に合わせて破碎度区分を追記した	93.14	93.22	(破碎度区分)Hj	-
320	93.22	93.37	(コアの形状欄)Vランク	93.22	93.37	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	93.22	93.37	(コアの形状欄)IVランク	-
321	93.22	98.56	(実質欄)3ランク	93.22	98.56	(実質欄)2ランク	・実質の程度が弱いため実質のランクを2ランクに変更した	93.22	98.56	(実質欄)2ランク	-
322	93.57	94.18	(コアの形状欄)Vランク	93.57	94.18	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	93.57	94.18	(コアの形状欄)IVランク	-
323	93.70	93.88	(コアの硬さ欄)Cランク	93.70	93.88	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	93.70	93.88	(コアの硬さ欄)Bランク	-